

BUG CHASER PLUS

盗聴発見機
バグチェイサープラス

バグチェイサープラスは、電波探知と音声受信の二つの機能を搭載したデュアルモードモデルです。電子アラーム音とLEDにより盗聴器の存在を知らせたり、受信した電波の内容を実際に聞くことができます。取り扱いも簡単で、初心者からプロの方までご利用いただける一台です。

■ バグチェイサープラス各部名称

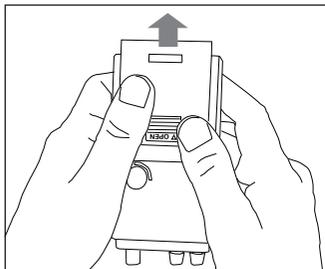
▶▶ 使用方法については裏面をご覧ください。



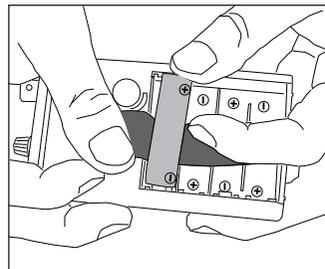
- ① ロッドアンテナ
- ② アンテナジャック
- ③ イヤホンジャック
- ④ アラーム / ラジオモード
切換えツマミ
- ⑤ 電源兼音量ツマミ
- ⑥ 信号強度表示 LED
- ⑦ スキャンボタン
- ⑧ スピーカー
- ⑨ 電池外しリボン
- ⑩ 電池スペース蓋
- ⑪ 電池スペース

△ 本体背面に筐体成型時に出来る模様がありますが、商品の不良ではございません。

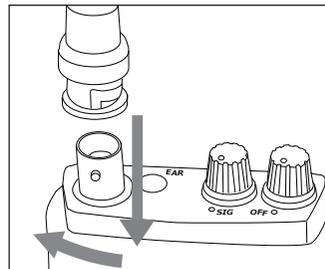
■ セッティング



1. まず最初に電池を入れます。図のように本体裏側に上に向けて、電池スペース蓋(⑩)を両手の親指で軽く抑えながら矢印の方向へ押し出すように外します。



2. 電池外しリボン(⑨)が付いていますので、その上から+と-を間違えないように単3電池(⑪)を入れてください。入れ終わったら蓋を閉めてください。



3. ロッドアンテナ(①)を接続します。アンテナジャック(②)の凸部と、ロッドアンテナ側の凹部を合わせて差し込み、向かって左に回してロックし、アンテナをいっぱい伸ばします。

■ アラームモード

室内に存在する盗聴電波の発信源を探し出す機能です。信号強度表示 LED の点灯数と、スピーカーが発する警告音(またはイヤホンで聞いた時の警告音)の変化から電波の飛来する方向を特定。感度を調整しながら発信源までの距離を狭めていきます。

■ ラジオモード

受信した電波の内容を聞くことができる機能です。アラーム / ラジオモード切換えツマミで、ラジオモードにして使用します。ラジオモードにすると、スケルチ機能の調整が可能になります(裏面をご参照ください)。

■ スケルチ (SQL)

スケルチとは、指定されたレベル以下の電波を受信しないようにする機能です。しきい値を設けて、そのしきい値以下の電波を無視するようにする機能です。

■ スキャン (走査)

ラジオモードのときに、スキャンボタンを押すとスキャンを開始します。スキャンボタンを押すことで順次、バグチェイサープラスが自動的にスキャンを行い、電波があるところで停止し、受信した音声が入ります。スケルチ設定が高いときは、強い電波を受信したときにスキャンを停止し、逆に低いときは、弱い電波でもスキャンを停止します。念入りに受信したいのであれば、「低」側にします。通常は10時の位置にします(裏面をご参照ください)。

■ 広いスキャンング周波数

スキャンング周波数帯域は50~2,000MHzをカバーします。一般的な盗聴器に扱われるVHF及びUHF発信機の帯域にチューニングを施し、盗聴電波を捉えやすくしています。

※FM盗聴器には対応していません。
※1,000MHz以上は感度が低下します。

■ 発見作業時の注意

入室しているときに使用するであろう電化製品の電源をオンにしてください。PCも電源をオンにしてください。夜間なら、室内の照明や電気スタンドなどもオンにしてください。これらは、電化製品に組み

込まれた擬装型盗聴器やPCから電源をとる盗聴器の発見作業に必要となります。

■ LED 表示

緑 LED 点灯 = 電源 ON / 受信時
赤 LED 点灯 = スキャン中 / 1~5 で感度表示

■ 電話用盗聴器に関して

バグチェイサープラスは、電話用盗聴器にも対応しています。電話用盗聴器を調べるときも、手順は基本的に同じです。発見作業時は、電話機を通話状態に行います。117の時報をダイヤルするなどして通話状態にしてください。ハウリングを利用した発見作業の際は、受話器の送話口を盗聴器のマイクに見立てて行います。

※アナログコードレスホンを使っている場合は、一時的に普通の電話に交換し、発見作業を行います。これは、アナログコードレスホンの子機の送信周波数がバグチェイサープラスのスキャン周波数帯域内に入り、発見作業の妨げになるのを防ぐ為です。

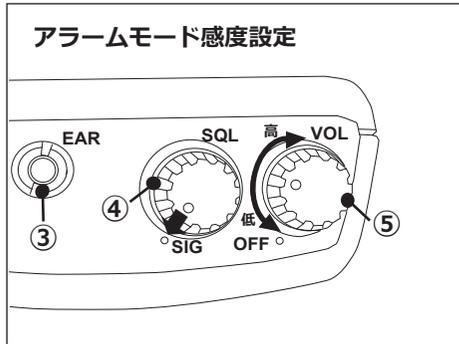
※多くの電話用盗聴器は、電話用周辺機器と同じ形をしています。発見作業中に盗聴器の反応があった場合、電話機やモジュラーコネクタなどを変えて、再度発見作業を行います(盗聴器が電話機や周辺機器に組み込まれている可能性がある為です)。変えて反応が無くなった場合、取り外した機器やコネクタに盗聴器が組込まれている可能性があります。

— バグチェイサープラス製品仕様 —

外寸	本体: 65 x 32 x 116mm · アンテナ: Φ 14.5 x 155~615mm
重量	本体: 206g (アルカリ電池含む) · アンテナ: 30g
電源・消費電流	単3電池 x 4 · アラームモード時 17mA / ラジオモード時 65mA (どちらも無信号時)
受信周波数	50~2,000MHz(2GHz) ※1,000MHz以上は感度が低下
スキャン時間	4~6秒 / 回
音声モニター	あり (ラジオモード)
製品構成	本体・ロッドアンテナ・イヤホン・単3電池 x 4

バグチェイサープラス 簡易取扱説明書

セッティングの後、下記手順に従い発見作業を行ってください。操作を開始する前に、オモテ面の「バグチェイサープラス各部名称及び付属品」をご確認ください。



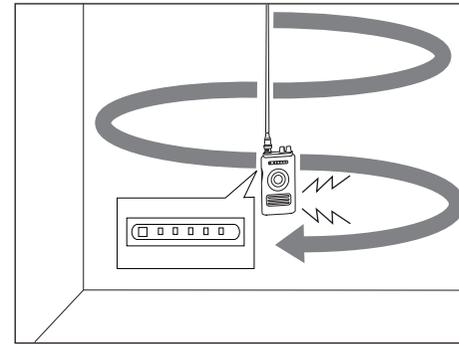
1 最初にアラームモードで、電波を発しているものがあるか探します。電源兼音量つまみ(5)を右に回して電源を入れます(カチッという手応えがあります)。

※この際、つまみ(4)がSIGの位置にある事をご確認ください。
※イヤホンをイヤホンジャック(3)へ接続して、スピーカーから警告音が発しない様になると聴取者に聞かれずに探索出来ます。

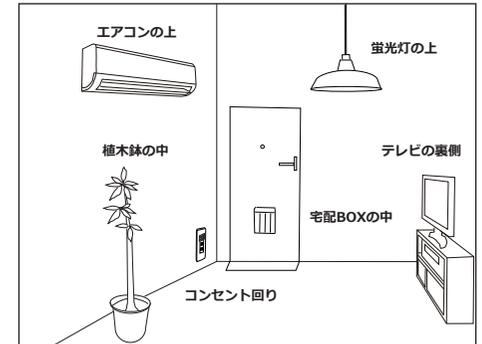


2 信号強度表示LED(6)左端にある起動LEDが緑点灯します。そのまま電源兼音量つまみ(5)を右に回し信号強度表示が1~2個点灯するくらいに調整します。

※アラームモード時、「電源兼音量つまみ」は感度調整の働きをします。感度を一番低くしても、信号強度表示が1~2個点灯状態にならない場合、すぐ近くに電波を発する何かがあります。離れた場所へ移動し、信号強度表示の点灯を1~2個に調整します。

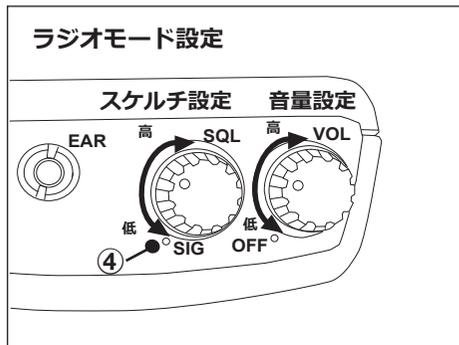


3 壁面を撫でるようなイメージで、バグチェイサープラスを動かしてください。電波が存在した場合、アラーム音が「プップッ」から「プブブブ」に変化して、信号強度表示LED(6)の信号強度表示数も増えていきます。



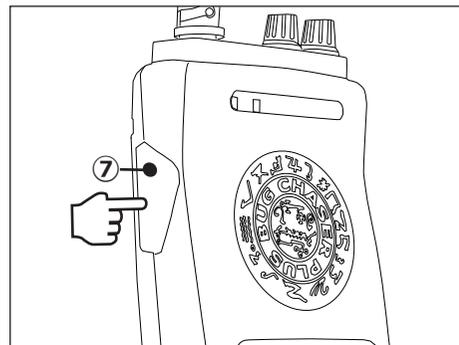
4 反応があった付近を、電源兼音量つまみ(5)で感度を下げながら場所を絞り込んでいきます。

※この時点で、ラジオモードに切り換え(後述)盗聴器が拾っている音を聞き、盗聴器の有無を判別する方法もあります。ラジオモードにした本機から出る音を聞きながら、盗聴器とおぼしきものを指で順次はじき検査します。はじく音が同じタイミングでイヤホンから聞こえる場合、盗聴器が存在する可能性があります。



5 アラームモードで電波の存在が確認できたらラジオモードに切り換えます。アラーム/ラジオモード切換えつまみ(4)を右に回してSIGの位置から外し、10時の位置にします。

※ラジオモード時、「アラーム/ラジオモード切換えつまみ」はスケルチの調整を行います。
「低」側(SIGを外したすぐ隣)から「高」側に調整することで、スキャン時に効率よく電波の受信ができます。



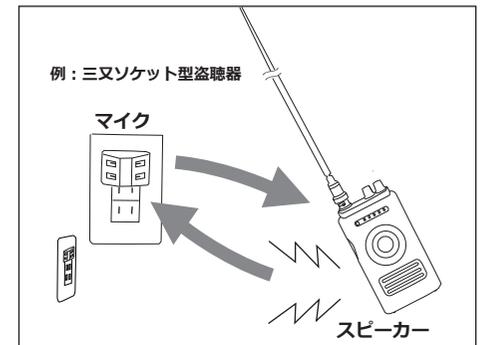
6 本体側面のスキャンボタン(7)を押してスキャン(走査)を開始します。

●公共放送について
バグチェイサープラスは、公共放送も受信することがあります。ラジオ放送などを受信した場合は、無視して再度スキャンボタンを押してください。



7 受信した電波の内容を聞き、同室内の音やご自身の声が聞こえてくるようであれば、室内に会話用盗聴器が存在する可能性があります。

※発見作業をされる際、お好きな曲などをかけながら行くと盗聴器の有無の判別に役立ちます。
※次の工程ではハウリングを利用し、発信源を探し出します。イヤホンを接続している場合は外してください。



8 ラジオモードを維持したまま、3, 4で行った作業と同じようにバグチェイサープラスを動かしてください。作業しながらスピーカーから「ポワ〜ン」という音を発する場所を探します。これは、カラオケでマイクとスピーカーが近付くと音が出る現象です。この反応があった場合、盗聴器が存在する可能性があります。バグチェイサープラスのボリュームを下げながら探索する事で、盗聴器までの距離を狭めていきます。